

# 神奈川県の学童保育

## 「第44回神奈川県学童保育研究集会（かな研）」 コロナ禍での学童保育～オンラインで、学びあおう！つながり続けよう！～

2021年2月28日(日)に「第44回神奈川県学童保育研究集会（以下、「かな研」）」をオンラインで開催しました。

前年度の「第43回かな研」は、新型コロナウイルスの子どもへの感染が確認されたとのニュースや、厚生労働大臣からの「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」を受け、やむなく中止としたため、今年は何とか開催したいとの強い思いがありました。

8月の県連協運営委員会で「参加者、関係者の安全を考え、オンラインで開催する」との確認をし、9月に実行委員会を立ち上げました。初めてのオンラインでの開催です。まだまだオンラインによる研修の情報が少ない中での、手さぐりでの検討が始まりました。

検討の結果、分科会のみとすることになり、実行委員会で推薦する6つの分科会（午前、午後各3分科会）で準備を進めました。

保護者と指導員がともに学ぶ場であると同時に、指導員の研修の場でもある「かな研」の役割を踏まえ、以下の分科会が決まりました。

- ①基礎「学童保育の生活と指導員の仕事」
- ②感染症対策と学童保育の生活
- ③子どもたちの身近にあるインターネット
- ④コロナ禍での生活づくりでこころがけたいこと
- ⑤一人ひとりを大切に  
～障害のある子どもを含めた生活づくり～
- ⑥子どもの心のケア「非日常」が子どもたちに与える影響

講師には、汐田総合病院の院内感染管理者である知念正篤先生や、セーブ・ザ・チルドレンでご活躍の河島 譲先生その他、前回の「かな研」で講師をしていただくことになっていた矢野さと子先生（子どものネットリスク教育研究会）、岸川 学先生（神奈川県立大）にお願いすることができました。



第2分科会「感染症対策と学童保育の生活」  
講師の知念先生

「かな研」当日は、発信会場に集まった関係者は、身体的距離をしっかりと保ち、それぞれがパソコンを前にしての運営です。（自宅から参加したSTAFFもいました）

参加者からは「初のオンラインにての分科会参加でしたが、非常にやりやすかったです。会場に集まって対面での分科会も好きですが、参加のしやすさは非常に素敵だと思いました。」「オンラインでの参加は思っていた以上に良かったです。手元の資料と照らし合わせながら先生と1対1で講義を受けているようで、とても集中出来ました。またメモも取りやすく、一人部屋の中で勉強しているような雰囲気の中、落ち着いて受講することが出来ました。」といった感想をいただきました。



パソコンの前で「日本の学童ほいく」を読む  
第4分科会講師の飛鳥井さん

例年、分科会は3時間程度で行っていますが、今回は準備時間も考慮し、2時間としました。質疑の時間が十分に取れないため、事後、参加者から質問を受けることにしました。それに対し講師の皆様から、快くご回答をいただくことができました。この場を借りて、講師の皆様へ深く感謝申し上げます。

また、STAFFとしてかかわってくださった多くの皆様のお力で無事に開催ができました。関係者の皆様へ心よりお礼を申し上げます。



総合ホストとして3つの分科会を見守る STAFF（堀さん）

## 『学童保育指導員オンライン基礎研修』を実施

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、各地域とも研修がなかなかできない状況にありました。そこで、新人指導員だけでなく、基礎的な内容をクラブ全員の指導員がともに研修を受けることで、改めて保育内容の確認と共有を図っていただければと願い、オンラインで参加できる、県内の学童保育指導員のための基礎的な研修を企画しました。(全3回)

第1回は、「学童保育の生活をつくる～日々の中で大切にしたいこと～」と題し、横浜市夢学童の八木晶子さんに講師をお願いしました。「学童保育の生活をつくるとはどのようなことかを確認し、学童保育での生活や子どもとのかかわりなど、日々の中で大切にしたいことについて学びましょう。」という内容で、11市町より89人の参加がありました。〔11月27日(金)実施〕

第2回「学童保育の役割と指導員の仕事」は、横須賀市岩戸・大矢部学童クラブ指導員の飛鳥井祐貴さんに講師をお願いし、「学童保育の役割と指導員の仕事・役割について大切にしたい基本的視点」をお話しいたき、10市町99人がともに学びあいました。〔1月22日(金)実施〕

そして第3回は、10市町83人が参加し、平塚市ひまわり学童の根野善美さんによる「指導員の仕事・日々の実務」で、宿題、おやつ、あそび、また打ち合わせも含めた事前準備、保育記録、保護者や学校・関係機関との連携など、多岐にわたる指導員の仕事の実務を具体的に学びました。〔2月12日(金)実施〕

参加者からの感想をご紹介します。

- ◆ 学童保育の役割や歴史の基礎的な話を基に、子どもの課題の変遷と指導員に求められてきたことや今大切にしたいことを整理してお話ただけで、内容がしっかり入ってきました。〔第1回・横浜市〕
- ◆ 入ったばかりの方々にやっと基礎研修を受けてもらえて嬉しかったです。八木先生…ギュッと詰まったお話をありがとうございました。〔第1回・南足柄市〕
- ◆ わかりやすい説明でした。合間の子どもたちのエピソードもほほえましく、楽しく研修を受けることができました。〔第1回・横須賀市〕
- ◆ 「子どもたちは立派な施設に帰ってくるのではなく、“人”に帰ってくる」という飛鳥井先生の言葉に改めて、これが指導員の専門性の一つであると感じました。これからも人間性を磨き続けていきたいと思えます。〔第2回・藤沢市〕
- ◆ 指導員の仕事は「今やっている全てのことが大切なこと」との話がありました。例えば出席簿1つにしても、子どもの体調や様子を判断するのに大事である。と。毎日の検温や部屋おもちゃの消毒の大切さなどを再認識したと共に、今後もしっかり行おうと思いました。〔第2回・平塚市〕
- ◆ 日々行っている具体的な仕事についても、その大切さを改めて実感させていただきました。その中でも、具体的なお話で工夫されていることなど、参考にしたいと思いました。〔第3回・山北町〕
- ◆ 子どもひとりひとりの最善の利益についての何もしない時間も大切であるというお話しと、子どもひとりひとりに関する情報を職員間で共有することについての大切さについてハッとさせられました。日々の自分の保育に照らし合わせて振り返ると、自分の改善点が見えてきました。〔第3回・逗子市〕

まだしばらくは集まっての研修が難しいと思われそうですし、重ねる中で、オンラインでの良さも感じる事ができました。発信側にも参加者側にも、まだ慣れないことでの難しさはあるものの、これからの研修のあり方として、2021年度もオンラインでの研修を開催していきたいと準備を始めています。

去年は山形で開催予定だったのに中止になり残念でした。  
2年ぶりに全国研の開催、楽しみです！

### 第56回全国学童保育研究集会 2021年度の全国研はオンラインで開催！

記念講演 石原剛志先生（静岡大学）

オンラインだから交通費がかからないので、クラブのみんなで参加できるかも(^^)♪

石原先生は、『日本の学童ほいく』2月号(全国研特集)で「出会いと知恵を交わし合う場としての全国研を」を寄稿されています。その中で「全国研は学童保育をより良いものにしてほしいと願う人たちの出会いを支え、学童保育をより良いものにしていくための知恵を交わし、作っていく場になっている」と書かれています。

コロナに負けず、学童保育をより良いものにしていくよう、オンラインで集っていきましょう。

開催予定日：10月23日(土)～24日(日) (詳細はもうしばらくお待ちください。)



## 私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。

2月は三浦の伊集さんからのおすすめです。

21年2月号の特集で「全国研」の歴史を感じました。自分が生まれた年に第1回が開催されていたので、ことに感慨深いです。また、自分は、昆虫などが好きなので、“子どもらんど”や昆虫の紹介などは毎回楽しみにしています。

1月号～3月号で茂木俊彦先生による特別連載「子どもを深く理解するために」が組まれています。言葉の裏に気づくことが大事だと改めて感じることができました。

出会い集い父母会を読むことで保護者を知ることができます。保護者を理解することで子どもの理解につながると思っています。ほいく誌を毎日読むことで、保育への考え方などを自分の中に刷り込んでいくことができると感じています。

そして、3月は大和の弓気田さんからバックナンバーからのおすすめをいただきました。

2020年4月号～9月号の講座「障害のある子どもの理解を深める」(佐々木将芳)から。

運営指針と照らし合わせながらわかりやすく書かれています。

最終回では、指導員同士、他の専門職との連携、その前は保護者との連携について書かれているが、まさに大和市連協が取り組んできたことであり興味深かった。

市の中で、学校、担当課に福祉サービスの知識が必要だと感じている。質の評価につなげていきたい。

伊集さん、弓気田さん、おススメをありがとうございました！！

## 2021年3月号～4月号に掲載されている神奈川からの投稿

### <2021年3月号> 特集「より良い学童保育を一施策の現状と課題」

☆ 子どものひろば

あさひさん〔平塚市1年生〕

あかりさん〔川崎市3年生〕

### <2021年4月号> 特集「ようこそ！出会い・広がれ・学童保育」

★ 特集「学童保育で過ごす時間の中で親子の成長を感じて」 名島加奈子さん〔横須賀市保護者〕

☆ 私のおすすめこの絵本『はるのゆきだるま』

藤原久美子さん〔横浜市指導員〕

☆ 子どものひろば

優月さん〔横浜市小学1年生〕



## 一人ひとりの声を 国と自治体に届けよう



全国学童保育連絡協議会は、子ども一人ひとりが安心できる学童保育を求めて私たち「一人ひとりの声」を国と自治体に届ける取組をします。

神奈川県連協としても、県内の保護者、指導員、子どもの思いや願いを束ね、国、県そして各自治体に届けるためにともに取り組みます。

「学童保育が、自分(子ども、保護者、指導員)や地域にとってどのような存在なのか」や、各クラブ、各地域で困っていること・課題と感じていることなどを伝えていきましょう。

あなたの声を県連協に送ってください。

メールで送っていただく場合には、件名を【一人ひとりの声】としてください。

送先 神奈川県学童保育連絡協議会

Mail [kana\\_ken@outlook.com](mailto:kana_ken@outlook.com)

Google フォームで送っていただくこともできます。 →

<https://forms.gle/eCcfiAQa9huVteN29>



## 活動報告(2021年2月～2021年3月の主な活動報告)

2月6日～7日 2月全国運営委員会  
 2月11日(木・祝) 全国指導員学校・南関東学習会  
 2月12日(金) オンライン基礎研修③  
 2月28日(日) 第44回神奈川県学童保育研究集会

他 第1木曜日 定例運営委員会に付随し、定例役員会、定例事務局会議を実施  
 また、2月中はかな研準備のため会議・打合せを何度も実施しました。

## ♪ 横浜連協だより ♪

横浜連協は今年で創設50周年を迎え、記念誌の発行に向けて準備を進めています。  
 新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着けば、夏に記念レセプションを開催したいと思っていますが、どうなりますか・・・。

横浜連協では署名運動を40年以上続けていますが、3年前からは議会請願と陳情署名に分け、請願は全会派一致での採択を目指し、具体的な要望事項は陳情署名で行っています。

また、市の担当課との定期懇談を年6回以上、市会党派との役員懇談も年3回以上行っており、かなり良好な関係が築けていると思います。

今回の新型コロナウイルスの対応でも、横浜市は国の補助金等をかなり迅速に実施し、対象経費についてもクラブからの要望も多く取り入れるなど、頑張ってくれました。(この辺の経緯は、『日本の学童ほいく』9月号に報告記事が掲載されています。)

加盟クラブ数はやや減少しています。特に退会したクラブ数を分割によって増加したクラブ数で埋め合わせているということなので、会費収入の基となる世帯数の減少が財政的にも大きな問題となっています。(このことは『日本の学童ほいく』誌の購読数の減少にも現れています。)

横浜連協の活動で力を入れている事業は「運営事務サポート事業」で、クラブの運営会計、給与計算、労務書類作成などのサポートを行っています。6年前にスタートし、毎年少しずつ受託クラブ数を増やし、クラブの保護者負担の軽減をはかるとともに、横浜連協の財政収支にも寄与しています。

新型コロナウイルスの影響で児童数が減少していることに加え、新年度には放課後キッズクラブに新たな区分(17時までの預かりの場として月額保育料2千円)が設けられなど、横浜市の学童保育をめぐる情勢は厳しいものがあります。横浜連協としては、横浜市に学童保育の施策を改善させる働きかけ(運動)と、クラブの運営継続を支援する取り組み(運営支援)の2本柱でこれからも活動していきたいと思っています。

6月号の「地域連協だより」は相模原市連協の予定です。

お楽しみに!



神奈川県学童保育連絡協議会HP

(<http://kanaken.onushi.com/>)



### 44 かな研「感染症対策と学童保育の生活」を特別配信します

44 かな研(2/28実施)で「感染症対策と学童保育の生活」に出られなかった方からの強い要望を受け、録画を期日限定で配信することになりました。〔視聴費：1000円/人(資料代含)〕  
 視聴日：4/18(日)10時～、4/27(火)オンデマンド配信 \*申込・問合せは県連協(Tel 045-662-9647)まで

### <これからの主な予定>

- 6月6日(日) 第46回全国学童保育指導員学校・南関東会場〔オンライン〕
- 6月27日(日) 第46回県連協定期総会
- 10月23日～24日 第56回全国研@オンライン(予定)
- 10月10日(日) 秋の学習会「放課後児童クラブ運営指針を改めて学ぶ(仮)」

\*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。